

平成29年度第2回徳山中央病院地域連絡協議会 議事概要

【日時】平成30年2月21日（水）19:00～19:50

【場所】JCHO徳山中央病院本館11階会議室

【次第】

1. 開会挨拶
2. 委員紹介
3. 議題
 - (1). 徳山中央病院の現状報告
 - (2). 平成29年度年末年始の救急外来について
 - (3). 図書ラウンジの開設について
 - (4). 外来待合ホールの改修について
 - (5). 各委員からの要望等について
 - (6). その他
4. 閉会挨拶

【出席者】

中嶋 裕	(山口県周南健康福祉センター所長)
大西 輝政	(周南市役所福祉医療部長)
津田 廣文	(徳山医師会会長)
蔵田 聡	(徳山歯科医師会会長)
西村 正広	(徳山薬剤師会会長)
高松 育人	(周南市立新南陽市民病院事務局長)
松村 紀文	(徳山医師会病院事務局長)
北村 則和	(周南市社会福祉事業団事務局長)
有馬 俊雅	(周南市社会福祉協議会事務局長)
田中 義啓	(周南市自治会連合会会長)
前田 瞬	(徳山大学福祉情報学部講師)
那須 誉人	(JCHO徳山中央病院院長)
齋藤 満	(JCHO徳山中央病院副院長)
沼 文隆	(JCHO徳山中央病院副院長)
松浦 義則	(JCHO徳山中央病院事務部長)
小阪 マリ子	(JCHO徳山中央病院看護部長)
欠席者なし	

【議題概要】

1) 徳山中央病院の現状報告

- ・29年度4月～1月の診療実績を27年度、28年度と比較しながら報告した。

2) 平成 29 年度年末年始の救急外来について

- ・平成 29 年度年末年始の救急外来およびこども QQ の状況について報告した。
- ・年末年始 6 日間の救急外来患者数は 818 人、こども QQ 受診患者数が 700 人。
(インフルエンザが流行による患者数増による影響。)
- ・年末年始 6 日間の救急車 130 台、救急外来受診後入院患者数 122 名。
- ・年末年始 6 日間の救急受診患者数が、通常月 1 ヶ月分以上の受診数であった。

3) 図書ラウンジの開設について

12 月からプレオープンした図書ラウンジについて報告した。

<目的>

図書ラウンジは、地域の方や患者さんご自身が図書を通じて、病気や治療方法を調べたり、理解を深めるお手伝いをする場所として開設した。

<場所>

本館 1 階ドトール横

<運用方法>

管理は、ボランティアの方に手伝ってもらい、12 月からプレオープンという形で 10:30～15:30 で運用している。

3 月 1 日から運用時間を増やして 8:30～17:00 で運用する。

また、ボランティアの方の人数が増えたら、入院患者さん向けに、巡回図書というサービスを行っていく予定である。

<利用方法>

患者さんのご家族等来られた方みなさんが利用できる。

院内で自由に利用でき、いつでも返却できるように返却ボックスを用意している。

<図書内容>

購入図書約 300 冊 (専門領域の医師に確認済みの医学用専門書)

寄贈図書約 400 冊 (院内の職員や患者さんからの寄贈図書)

4) 外来待合ホールの改修について

外来待合ホールの簡易改修について報告した。

<目的>

外来待合ホールがある西館は築40年たつが、改修できていなかったため、簡易ではあるが、床、壁、天井の塗装や張替え等の改修を実施している。

<改修期間>

平成30年2月3日(土)～3月18日(日)

※ この改修に合わせて、待合の長椅子も更新予定。

5). 各委員からの要望等について

(質問)

救急車で来られる方の年齢層は、75歳以上がどのぐらいいるか？

(回答)

約半分ぐらい占めている。詳細は確認する。

(質問)

運営する特別養護老人ホームで4月から看取り加算を検討しているが、何の準備もせず、すぐやっすぐとれるわけでもないので、協力病院や生活医でお世話になっているが、また、所管の担当者より相談させていただきたい。

(回答)

この問題は、亡くなる前にすぐ病院につれていくのではなく、POLSTというその方にどうしたいか意思確認をしておくこともこれからは必要になってくる。施設から病院へ心肺停止で運ばれてきても救急外来は2台入るといっぴいになる。これから大事なこと。

(質問)

図書ラウンジが始まったきっかけを教えてください。

(回答)

本当は図書室を作りたいかったが場所がなかった。これまでも職員の中からも意見があり、サービス委員会からこのような形の提案があり管理者の会議の中で満場一致で決まった。

(要望)

周南医療圏の中でも徳山中央病院の位置づけというものは大変大きいと認識している。救急車数、入院患者数、年末年始の患者数の受け入れを数字で見て、改めて徳山中央病院の必要性、重要性を認識させていただいた。この体制を維持していただきたい。

ここがあるから市民の安全安心が保たれる。

(回答)

引き続きこの体制を維持していきたい。

(意見)

救急患者さんの受け入れが 500 件増えている。搬送患者が増えているのもあるが、近隣の受け入れも難しいのかと思う。

(回答)

数的には近隣の医療圏の数は多くはない。じわりと増えている。

今年は、インフルエンザが多かった。家族みんなで来られるため、待合スペースも無かった。

(質問)

今年はインフルエンザが非常に多く、休日診療所でも先日 110 人患者が来て、その 8 割がインフルエンザだった。年末年始のこども QQ が多い日で 180 人来ているが、体制は 1 人が診ていたのか？

(回答)

年末年始の日中は 2 人体制でおこなった。

救急用ベッドの準備などは事前に進めていた。

(質問)

図書コーナーの寄贈図書について、随時受け付けてもらえるのか基準などあるのか。

(回答)

寄贈された本の状態によって担当が見極めている。感染の関係で全ての図書にカバーをかけている。また、寄贈いただくものはどの領域も受け付けている。図書ラウンジで随時受け付けている。

(報告)

年末年始も院外薬局は 2 人体制だったが、あまりに多かったため急遽 3 人体制にした。

来年は、最初から 3 人体制でやろうという話が出ている。

(質問)

救急車の搬送件数が、1 月が 100 件ぐらい多いがどうしてか。

(回答)

その前の 12 月も多い。年末年始の関係だと思われる。

(質問)

特にインフルエンザが多かったというわけではなかったのか。

(回答)

インフルエンザが多かったわけではない。

(質問)

ボランティアが中々集まらないと言われたが、スマイルや広報誌で募集されるのか。

(回答)

ホームページでも募集している。

(質問)

ボランティアの現在の登録人数は何人か。

(回答)

現在2名で、申込があったのはあと3名で計5名。もう少し増えれば時間調整できる。

(質問)

ボランティアは図書ラウンジだけか。

(回答)

今のところ図書のみだが、今後、別の領域でも検討していきたい。
緩和ケア病棟は病棟内でボランティアを募集している。

(質問)

平均在院日数が減っていつているが、限度期間があるのか。

(回答)

限度期間は無い。入院期間を短くしなさいという政府の方針だが、状態の悪い方は何日もおられる。

(質問)

岩国や柳井から来られる方が徐々に増えているとの事だが、徳山中央病院では先生の数に充足しているのか。

(回答)

充足している。看護師や薬剤師なども増えてきている。

(情報提供)

岩国の方から、『基地問題もあるが、大病院について医者が足りない。しかもどんどんやめていく。それはどうしてかという若い先生のストレスの発散場所が無い。それで、みんな広島に行くんだ。それで困っているが徳山の方はどうか。』と尋ねられたので、徳山もいずれそうなるかもしれないという情報提供である。

(回答)

先日、山口県の医療協議会があったが、山口県の医師の数は満たしているが、全国よりは、はるかに少ない。特に35歳以下の医者の数は10数年前から6割ぐらいになっている。

(質問)

耐震化の状況を教えてほしい。

(回答)

西館は耐震化出来ていない。すぐに対応できないので建て替え前に簡易な外来改修をおこなう。

(要望)

処方せんに患者情報等が入っているQRコードを入れてもらえるように検討していただきたい。

(回答)

確認して、検討していく。

6). その他

特になし

以上